

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 112-8778

住 所 東京都文京区小石川1-1-1

氏 名 三菱食品株式会社

代表取締役

印

京谷 裕

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	三菱食品株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区夜光3-2-3		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の種類	大分類	I	卸売業、小売業
	中分類	52	飲食料品卸売業
主たる事業 の内容	小売業および外食産業等への加工食品類の卸売事業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		1,767 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		6 t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ~ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	
排出量 (t-CO ₂)	(実) 2,960	(実) 3,035	(実) 3,215	(実) 3,004	(実) 2,870
	(調) 2,935	(調) 3,029	(調) 2,771	(調) 3,004	(調) 2,846
削減率		(実) -2.5 %	(実) -8.6 %	(実) -1.5 %	(実) 3.0 %
		(調) -3.2 %	(調) 5.6 %	(調) -2.4 %	(調) 3.0 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

	延床面積				原単位等の単位	t-CO ₂ /m ²
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度		
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		目標とした値
排出量原単位等の値	0.04472	0.04586	0.04858	0.03890		0.04337
活動量の値	66,176	66,176	66,176	77,223		-
排出量原単位等の削減率		-2.5 %	-8.6 %	13.0 %		3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	2022年度は、特に当社対象拠点のうち、一番規模の大きい川崎夜光SDCに於いて、低温商品の出荷数量が1%程度増加。庫内作業増加、および、冷蔵冷凍設備の稼働への影響のため、目標年度に比してエネルギー起源CO ₂ の排出が微増したと判断する。	
第2年度	2023年度は、当社対象拠点のうち、川崎夜光SDCに於いて出荷数量が3%程度増加。庫内作業、および、庫内設備の稼働時間が増加し、目標年度に比してエネルギー起源CO ₂ の排出が増加したが、二酸化炭素排出係数の増減により、実排出量が増加、調整後排出量は減少となったものと判断する。	
第3年度	2024年度は、出荷数量が増加し、庫内設備の稼働時間も増加したため、また、二酸化炭素排出係数が前年に比して大きくなったため、目標年度に比して温室効果ガス排出量が増加したが、次期に向けて増床を行ったため、原単位は改善した。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		拠点内の物流マテハン機器の稼働時間の増加により温室効果ガス排出量も増加すると思料。エネルギー使用量自体が増加しているため、目標値には至らなかったと判断する。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		本社専門部署のフォローをさらに充実させて、各拠点の温室ガス排出削減に対する意識を高めるとともに、管理標準の更新により各拠点の対応力の強化を図り度い。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本計画書制度対象拠点に対する、実地、または書面等による環境教育実施 2. 設備機器類管理手法の構築 3. 省エネ、温室効果ガス排出量削減に資する運用ルールの構築 4. 主たる事業所に於けるISO14001の導入 5. CVS対応部局との相互協力をはじめとする推進体制の強化
<p>第1年度</p>	<p>本計画書制度対象拠点に対する実地による環境教育開始：川崎夜光SDC 主たる事業所（川崎夜光SDC）に於けるISO14001認証の導入実施</p>
<p>第2年度</p>	<p>本計画書制度対象拠点に対する実地による環境教育継続：川崎夜光SDC 主たる事業所（川崎夜光SDC）に於けるISO14001認証運用フォロー</p>
<p>第3年度</p>	<p>本計画書制度対象拠点に対する実地による環境教育継続：川崎夜光SDC ISO14001認証を会社として返上したため、上記環境教育を実施強化</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	弊社の川崎市内の主要物流拠点である川崎夜光SDCにISO14001認証の導入を行う(2022年度に導入予定)。
第1年度	弊社の川崎市内の主要物流拠点である川崎夜光SDCにISO14001認証の導入を行い、環境対応全般についても指導を行うこととした。
第2年度	弊社の川崎市内の主要物流拠点である川崎夜光SDCにISO14001認証の導入を実施。定期的に環境対応事項全般について指導継続中。
第3年度	前述の通り、会社としてISO14001認証を返上したため、本社スタッフによる環境教育を強化中。 また、主たる事業所以外の2拠点への指導の検討を開始した。

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	2,959 t-CO ₂	3,034 t-CO ₂	3,214 t-CO ₂	2,998 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	1,679 KL	1,686 KL	1,787 KL	1,767 KL
事業所の数	3	3	3	3

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
川崎夜光SDC	神奈川県川崎市川崎区夜光3-2-3	2,283	2,389	2,491	2,385